

主な出来事

【内政】

- ラマポーザ大統領の予算演説
- アフリカ・デイにおけるラマポーザ大統領演説

【外交】

- ラマポーザ大統領の日・アフリカ官民経済フォーラム出席
- 米国のイラン核合意（JCPOA、包括的共同作業計画）離脱表明に対する南アの立場表明
- ラマポーザ大統領のILO仕事の未来世界委員会(Global Commission on the Future of Work)出席
- マブーザ副大統領の対ロシア大統領特使への任命
- 駐イスラエル南ア大使の召還
- シスル国際関係・協力大臣の予算演説
- シスル国際関係・協力大臣のG20ブエノスアイレス外相会合出席

【経済】

<経済指標>

- 政策金利
- インフレ率
- 失業率
- 為替レート
- 製造業
- 鉱業生産高
- 自動車販売台数

【広報・文化】

- 講演会「Lady Samurai」の実施

【警備】

- モスク襲撃事件

1 内政

● ラマポーザ大統領の予算演説

- 23日、ラマポーザ大統領は議会にて予算演説を行った。概要次のとおり。
- ・ 就任100日を迎え南ア国民は将来に明るい希望が持てるようになった。
 - ・ 失業や政府・国営企業の汚職、経済停滞など深刻な課題はしっかり認識する。
 - ・ 「雇用サミット」を開催し、失業者削減を最優先課題とする。
 - ・ 5年で1000億ドルの新規投資受入れのため、10月に「投資会議」を開催し、4名の大統領特使が投資プロジェクト一覧を予め作成する。
 - ・ 土地改革や農業改革も重要課題である。
 - ・ 国営企業改革のため財界人を含む「大統領国営企業評議会」を設置。
 - ・ インフラ整備のため「大統領インフラ調整委員会」の設置に同意。

- ・改正鉱業憲章を巡る協議は大きく前進している。
- ・包含的な経済政策の実現のため「大統領経済諮問評議会」を設置。外国人材も登用する。
- ・歳入庁の安定は最優先課題。刑事司法システムを強化し汚職撲滅に断固対応する。
- ・内閣の規模等の見直しを大統領府主導のタスクチームで次の総選挙後までに実施する。
- ・北西州の暴動の経験も踏まえ「大統領地方政府サミット」を開催する。
- ・ラマポーザ大統領は6月のG7サミット、7月のBRICS首脳会合、7月のAU総会、8月のSADC首脳会合、9月のFOCAC等に出席する予定。
- ・7月18日に民間主導の「ネルソンマンデラ・トゥーマミーナ基金」が設置され、社会的弱者向けプロジェクトを実施。ラマポーザ大統領は給与の半分を寄付する。

●アフリカ・デイにおけるラマポーザ大統領演説

25日、ラマポーザ大統領はアフリカ・デイに際し演説を行った。概要次のとおり。

- ・このアフリカ・デイは、1963年のOAU（アフリカ統一機構）の設立を記念している。OAUは、機構がAU（アフリカ連合）となった後もアフリカ大陸の統一の基盤を築き、アフリカの人々の尊厳を回復するために大いに貢献してきた。AUは大陸統一の長期計画であるアジェンダ2063においてその役割を期待されている。
- ・南アフリカ共和国の外交政策は、常にアフリカ大陸に根ざし、アフリカの平和と安全保障、発展と繁栄、アフリカ・ルネッサンスに貢献する。
- ・AFCFTA（アフリカ大陸自由貿易圏）は、アフリカ共通市場へのマイルストーンであり、10億人以上の人口を擁する約2.6兆米ドルの市場を創出、失業や貧困削減等のアフリカの主要な開発課題に取り組むものである。
- ・アフリカにおける紛争や脅威は劇的に減少しているが、未だ継続中の紛争地域があることに我々は懸念を抱いている。AUや国連との協力による努力が、これらの紛争の解決につながることを期待している。これら努力はアジェンダ2063の目標の1つである2020年迄の「銃の沈黙（Silencing the Guns）」の達成に貢献する。
- ・南アは、7月25～27日にヨハネスブルグで開催されるBRICS首脳会合において議長を務める予定。アフリカの利益の確保を追求する。
- ・南アは、9月に中国北京で開催されるFOCAC（中国アフリカ協力フォーラム）首脳会合でアフリカ共同議長を務めるが、次期共同議長を支援し、引き続き大陸がパートナーシップから最大の可能性を引き出すことを保証する。
- ・南アは、国連安全保障理事会の2019～2020年の非常任理事国としてAUからの支持を得ている。世界の平和と安全を促進することを目指す。6月8日の選挙に向けて皆様の支持をお願いしたい。
- ・今年は、南アの民主主義設立の父であるネルソン・マンデラの生誕100周年である。彼が正義、平等、非差別にコミットしたことを再認識する。

2 外交

●ラマポーザ大統領の日・アフリカ官民経済フォーラム出席

3日、ラマポーザ大統領は日・アフリカ官民経済フォーラムに出席し、基調演説を行った。同大統領は、TICADのオーナーシップと国際社会とのパートナーシップの原則を高く評価し、日本からの投資拡大を強く期待する旨述べた。

●米国のイラン核合意（JCPOA、包括的共同作業計画）離脱表明に対する南アの立場表明

9日、大統領府は、JCPOAを離脱するという米国政府の決定に関し、重大な懸念を表明すると同時に、JCPOAを高く評価し、他の締約国に対し合意の責任を果たすよう求めるラマポーザ大統領の声明を発出した。

●**ラマポーザ大統領のILO仕事の未来世界委員会 (Global Commission on the Future of Work) 出席**

ラマポーザ大統領は、ILOの仕事の未来世界委員会共同議長に任命され、15日から16日にスイスで開催された会合に出席した。委員会は、政府、ビジネス及び組合のリーダー達で構成されている。委員会の仕事は、若者の雇用創出という南ア政府の方針に合致するものである。

●**マブーザ副大統領の対ロシア大統領特使への任命**

14日、南ア大統領府は、ラマポーザ大統領がマブーザ副大統領を対ロシア大統領特使に任命した旨を発表した。15日、マブーザ副大統領はロシアを訪問し、プーチン大統領と会談し、同大統領の再選に関するラマポーザ大統領の祝意を伝達した。

●**駐イスラエル南ア大使の召還**

ガザ地区境界付近で40名以上の死者を出したイスラエル軍による弾圧を受けて、15日、南ア国際関係・協力省は、駐イスラエル南ア大使を召還する旨の声明を発出した。

●**シスル国際関係・協力大臣の予算演説**

15日、シスル国際関係・協力大臣は、議会にて予算演説を行い、イラン情勢に関する懸念や投資会議の開催に言及しつつ、マンデラ生誕100周年の今年、外交活動により南アの威信を取り戻し、より良い世界を実現することに精力を傾注する旨の決意を述べた。

●**シスル国際関係・協力大臣のG20ブエノスアイレス外相会合出席**

20日から21日にかけて、シスル国際関係・協力大臣はG20ブエノスアイレス外相会談に出席するためにアルゼンチンを訪問し、BRICSメンバー国や安保理理事国の外相と二国間会談を行った。

3 経済・開発協力

<経済指標>

●**政策金利**

南ア準備銀行(中銀)は24日、隔月の政策金利委員会を開催し政策金利を6.75%に据置くことを発表。

●**インフレ率**

南ア統計局によると、4月の消費者物価指数(CPI)は4.5%、前月比0.7%増。2018年3月から4月にかけて物価は平均して0.8%値上がりした。

●**失業率**

15日、南ア統計局は2018年第1四半期の失業率は26.7%となり、2017年第4四半期から横ばいとなった。大半のエコノミストは失業率27%を予想しており、今回は予想よりやや良い結果となった。前期比では雇用は20万6千人分増加し、分野別にみると自治体・社会福祉で9万5千人分、製造で5万8千人分、建設で4万人分の雇用が増加した。他方、15歳から24歳までの若年層で失業率は52.4%に達し、依然として深刻である。

●**為替レート**

2018年5月31日付(南ア準備銀行)

8.7200円/ランド

12.4805 ランド/米ドル

14.6215 ランド/ユーロ

●製造業

南ア統計局によると、3月の製造業生産高は前年同月比1.3%減。主な要因は、ガソリン・化学製品及びプラスチック製品で6.3%減、木材・木製製品・製紙・出版及び印刷製品で6.1%減、テキスタイル・服飾・革・履物製品で10.1%減、ガラス及び非鉄製製品で6.4%減を記録。他方で、食品・飲料製品で6.1%増、自動車及び輸送機器関連製品で6.4%増。

季節調整後生産高は、前月比1.3%増、2017年第4四半期と比較して今期（2018年第1四半期）は1.7%減。主な要因は製造業10部門中6つの分野での生産減。

●鉱業生産高

南ア統計局によると、3月の鉱業生産高は前年同月比8.4%減。最大のマイナス要因は金で18.0%減、PGMsで6.1%減、ダイヤモンドで24.7%減、及び鉄鉱石で8.9%減。季節調整後生産高は、前月比3.4%減。2018年第1四半期の季節調整後生産高は、前期（2017年第4四半期）と比較して2.5%減。12の鉱物分野のうち、10分野で生産減を記録したのが要因。

●自動車販売台数

南ア自動車工業界（NAAMSA）は、5月の自動車販売台数を発表し、前年同月比2.4%増の42,984台を記録したと発表。この内、ディーラー販売が87.0%、次いでレンタカー業界が7.3%を占めた。輸出台数は、前年同月比13.9%増の32,731台となった。新車販売台数は前年同月比0.7%増の26,561台となり、レンタカー業界が9.8%を占めた。国内販売では商用車、バギーやミニバスが前年同月比3.2%増加。ここ数ヶ月販売が伸び悩んでいた中型商用車は前年同月比17.6%増、大型トラック及びバスは21.1%増と大幅増を記録。トラック販売台数の伸びは、国内景況感の改善を反映。

NAAMSAは、今後も国内販売は伸びると予想し、年間自動車販売台数が前年2017年比3%増も期待できるとした。

4 広報・文化

●講演会「Lady Samurai」の実施

15日、当館及びプレトリア大学日本研究センター(CJS)の共催により、英国オックスフォード大学から当地を訪問中の歴史学者・北川智子博士による、我が国中近世史における女性の活躍をテーマとする「Lady Samurai - The Role of Women in Diplomacy during the Unification of Japan」と題した講演会をプレトリア大学において実施した。講演では、廣木大使から挨拶があった後、北川博士から、戦国大名の奥方が陰に陽に活躍した姿を、当時の文献等の紹介を交えて説明があった。講演はアクティブラーニングの手法により行われ、北川博士は時にクイズを出題し、時にディスカッションの機会を設けるなど、聴衆の関心を巧みに引き出し、会場は終始熱気を帯びていた。

14日には同大学において学生向け講義を、17日にはケープタウン大学において当館、CJS及びケープタウン大学アジア宗教研究センターの共催による講演会を、それぞれ実施した。

5 警備

●モスク襲撃事件

10日、クワズールナタール州ダーバン北方約25kmに位置するヴェルーラムにおいてモスク襲撃事件が発生した。

襲撃を受けたのはシーア派のイマム・フセイン・モスクで、礼拝を装ってモスクに侵入した男達がナイフでモスク内にいた人を切りつけ、2人が重傷を負い、1人が運ばれた病院で死亡した。犯人らは、モスク内の図書室等に火炎瓶様の物を投げて火を付けるなどして、白色の乗用車で逃走している。

13日には、同じモスクの聖職者の椅子の下から発火装置が見つまっているが、これが10日の襲撃時に設置されたものか、それ以降に設置されたものかは分かっていない。

本件の犯人は逃走中で、捜査は続いており、犯行動機は判明していない。